

御国がきますように！！あなたはどちらの国に生きるのか 「行きたいところ 行きたくないところ」～カインとアベル～

ヨハネ 21：17～22、創世記 4：2～16

■【理不尽が起こる時】

「なぜこのことをしてはいけないのか？」「なぜ自分だけこんなことになるのか？」など、理不尽に感じるようなことが起こった時。その中から本質を探り、どう生きるのか？を見出すチャンスです。

聖書は絶えず「してはいけないこと」を伝えています。それは私たちが愛されているからです。

■【新島襄】

『イエスは彼に言われた。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。』(ヨハ 14:6)

新島襄はこの御言葉から下の信念を導き出した。

「人生の幸いは、己れ自ら幸福を得るにあらず。真道に歩み、身真道に委ね、真道を以て他人を益するにあり。人の偉大さは学識だけでなく、私心のなきに現れる。」

私達が受けるだけのものであり続けるなら、死んでしまう…。

アブラハムが生贄として献げる「愛するイサク」の、「愛する」が聖書で初めて語られた愛という言葉。これは三つのヘブル文字の組み合わせで成り立っています。

①神様自身を表す「アーレフ」

②窓を象徴する、見る「ヘー」

③家を象徴し、家、家族、国、国民「ベート」

愛＝神様が見つめるあなた(国)

御国が来ますようにとマルコで学んできたことの結論です。

「御国が来ますように」は「愛で生きるように」ということです。

愛するとは、窓からあなたを見る様子。理不尽な世なかでも、神様は直接手を出さず、人間が神様の言葉と知恵を持って、治め・愛し合うように私達を育て下さっているのです。

■【羊飼】

私たちが羊飼になるために、神様は手取り足取り手伝われません。羊はいつも慌てふためいて、わざわざ行ってもいけないところに行ってしまう。隣の草を見て比較してそれを取りに行っても水に濡れたりもします。そんな時に、むちをパチンとたたきます。羊を叩くのではなく、オオカミを払うためと、羊の目の前を叩きびっくりして行ってもいけないところから戻すために叩くのです。神様は私達を羊と呼びます。神様は窓から私達を見て、私の家、国を見ています。私たちが彷徨っているなら、羊が群れに戻れるように窓から見て下さっています。神様は私たちが群れに戻り、良い羊飼いとなるように願っておられます。神様は私たちの根底を解決して下さいます。

■【イエス様とペテロの会話】

『イエスは三度ペテロに言われた。「ヨハネの子シモン。あなたはわたしを愛しますか。」ペテロは、イエスが三度「あなたはわたしを愛しますか」と言われたので、心を痛めてイエスに言った。「主よ。あなたはいつさいのことをご存じです。あなたは、私があなたを愛することを**知っておいでになります。**」イエスは彼に言われた。「わたしの羊を飼いなさい。』(ヨハネ 21:17)

〈知っている〉

“あなたは、私があなたを愛しているか**知っておられます**”

知っているは「ヤード」見張り、見極める門という意味があります。

〈私の羊を飼いなさい〉

羊を飼う「ラーアー」目を留める＝神様はアベルの捧げものに目を留められる。

■【カインとアベル】

〈創世記〉

『4:2 彼女は、それからまた、弟アベルを産んだ。アベルは羊を飼う者となり、カインは土を耕す者となった。4:3 ある時期になって、カインは、地の作物から【主】へのささげ物を持って来たが、4:4 アベルもまた彼の羊の初子の中から、それも最上のものを持って来た。【主】はアベルとそのささげ物とに目を留められた。4:5 だが、カインとそのささげ物には目を留められなかった。それで、カインはひどく怒り、顔を伏せた。4:6 そこで、【主】は、カインに仰せられた。「なぜ、あなたは憤っているのか。なぜ、顔を伏せているのか。4:7 あなたが正しく行ったのであれば、受け入れられる。ただし、あなたが正しく行っていないのなら、罪は戸口で待ち伏せして、あなたを恋慕している。だが、あなたは、それを治めるべきである。」4:8 しかし、カインは弟アベルに話しかけた。

「野に行こうではないか。」そして、ふたりが野にいたとき、カインは弟アベルに襲いかかり、彼を殺した。4:9【主】はカインに、「あなたの弟アベルは、どこにいるのか」と問われた。カインは答えた。「知りません。私は、自分の弟の番人なのではないでしょうか。」4:10 そこで、仰せられた。「あなたは、いったいなんということをしたのか。聞け。あなたの弟の血が、その土地からわたしに叫んでいる。』

主はアベルとそのささげ物に目を留められました。しかしカインとそのささげ物には目を留められませんでした。カインが自分をアベルと比較して怒ってしまったように、ペテロもずっと周りの弟子たちと地位を比べていました。そして、自分のやり方で生きてきた末にイエス様を裏切ってしまった。しかし、自分の生き方で生きると失敗してしまい、その土地は荒れていくことがわかります。

カインはその後、エデンの東(ノデの地＝彷徨い歩く者の地)に行きました。そしてその町は後にバベルの塔を建てるあの町となるのでした。人と比較するのはワナです。幸せを妨げる理由の一つは、人を見るからです。そしてイエス様を裏切ったペテロのように彷徨ってしまうのです。私達は、自分の生き方を捨てて、神様に聞く人生にしていけばいい。だけど聞けない私たちがいます。

<カインとアベル>

カイン 「形作る」

アベル 「虚しい」

形作る人は、本当は自らで切り開く力を持っています。カインも本当は違う道があったでしょう。しかしなぜそうってしまったのでしょうか。それは自分の弱さに虚しさを感じなければ、人は変わらないからです。カインが作った、町はバベルの塔を建てました。自分の弱さを知らずに、自分が神様になるかのような心になってしまったのです。

理不尽なことが起こった時、神様の計画を知らなければなりません。ペテロもやっと聴くことができました。自分の思いを虚しくして、あなたが知っていますと告白した時、聴こうとした時に、イエス様は教えて下さいました。「虚しさ」をあなたを救います。神様はあなたに目を留められ、あなたを選ばれたのです。

■【あなたに目を留める】

「神様はあまねく全地を見渡し、あなたに目を留められた。」神様は世界中であなたを選ばれたのです。子々孫々にまで栄えるんだ、私の子どもなんだ。今まで間違った道に歩いてきたけど今日からあなたの道は作り変えられるんだと教えて下さっています。

選ばれた私達は、選ばなければなりません。どうせ私は・・・と「比較する人生」か「神様が目を留め選ばれている私」このことを信じて変わる決断をするか。です。

さいごに

私達は、何か起こったら目の前のものだけを見て悲劇のヒロインになってしまいます。しかし神様はあなたの国を見ています。あなたの近視眼な目をおいて、神様の大きな目で一緒になって見てみましょう。そして神様は私の愛で羊を飼いなさいと教えて下さいます。自分のことを自分で導こうと踏ん張るのではなく、隣人を牧しなさいと。

「受くるより与えるものは幸いである。」今するべき大切なことに目を留めましょう。私の方法ではなく、神様の愛で行いましょう。そうするとそこに奇跡が起こります。

私達は神の作品であり、目的があります。比べるのはナンセンスです。自分の役割を知り、変わることができます。今日「神様が目を留め選ばれている私」このことを信じて変わる決断をすることができるよう一歩を踏み出しましょう。

(要約者:李 雋英)

(2023年7月9日)